

大垣東高校 『Prism』

◎ □ △ ○ ▽ ☆ ◎ □ △ ○ ▽ ☆ ◎ □ △ ○ ▽ ☆ ◎ □ △ ○ ▽

大垣東高校さんは「多様性をみとめま賞」です。

とても旬な問題に真っ向から切り込んで、「多様性を認めることって、何も言えなくなること？」っていう難しい問題から目をそらさない姿に感動したからです。

「ジェンダーや LGBTQ に関して考えさせられる内容だった。」「男女だけでなく、個人として人のことを見るべきだということを改めて感じた。」「人を性別ではなく個人として、一人の人間として接すべきだと思った。」「自分の友人に LGBTQ の友人がいるから、考えさせられて深い内容だと思う。」などの意見が出ました。

エキストラ（モブ）は必要なかったのではないか。」という意見もありましたが、「無神経な第三者目線を表現したかったのではないか？」ということで納得しました。タイトルの「Prism」の意味を調べてみると「多様性」という意味だけでなく、「偏見の固執」という意味もありました。両面あるのだということでしょうか。

単に「多様性」を主張するだけでなく、「LGBTQ」と「カミング・アウト」。「カミング・アウト」された側の対応。「統制・校則」と「自由・多様性」の問題、「『多様性』を認めることは何も言えなくなること？」というような、様々な問いかけがありました。それは現実問題として、正解のないものとして重くのしかかるものですが、正解のない重みに耐えて、よりよい在り方、関係を模索していかなければならない、ということだと思いました。そんな問題から目をそらさず劇作りをした、大垣東高校の皆さんの粘り強い姿勢に共感しました。

最後の〈カイ〉が〈大塚先生〉に「こう言いたいんですよ。『うっせえよ!!バーバーカ!!』」という強烈なセリフは、既成の価値観にとらわれた大人にはもう任せておけない、私たち若者がこの多様な世界、多様な問題を背負っていくのだ、という宣言のようにも聞こえました。

大垣東高校の皆さん、お疲れ様でした。

◎ □ △ ○ ▽ ☆ ◎ □ △ ○ ▽ ☆ ◎ □ △ ○ ▽ ☆ ◎ □ △ ○ ▽